



社会の変化に対応する大学 —地域社会に開かれたソシオテクノサイエンス研究部—

本年4月1日より徳島大学大学院工学研究科は、ソシオテクノサイエンス研究部と先端技術科学教育部に改組されました。事務部を除く全教職員は、ソシオテクノサイエンス研究部に移り、研究を推進するための柔軟な組織として部門制を執っております。また先端技術科学教育部は、大学院の博士前期課程及び博士後期課程の教育にあたります。全教員はこの教育部（大学院教育）と工学部（学部教育）に併任し、教育を行うことになりました。これは大学院重点化に伴い、大学院主体の大学になった証です。名実ともに研究主体のトップグループの大学としてスタートしたことになります。新しくなった組織を以下に列挙します。

【ソシオテクノサイエンス研究部】

情報ソリューション部門、先進物質材料部門、エコシステムデザイン部門、ライフシステム部門、エネルギーシステム部門

【先端技術科学教育部】

知的力学システム工学専攻：建設創造システム工学コース、機械創造システム工学コース
環境創生工学専攻：化学機能創生コース、生命テクノサイエンスコース、エコシステム工学コース

システム創生工学専攻：電気電子創生工学コース、知能情報システム工学コース、光システム工学コース

以下、工学部として説明させていただきます。

本学部における研究は、国内外から高く評価されています。その裏付けとして、科学研究費の獲得件数が全国で21位であり、多くの外部資金、競争的資金の獲得や、優れた雑誌に掲載された研究論文数からもお分かりいただけると思います。それらはまた実績として、全国709ある国公私立大学に対して、常にTOP 3%を維持しております。さらに、国内外の研究集会の開催を多く行っており、我々の研究成果を世界に向け発信しています。

工学部のキャンパスには、徳島大学研究連携推進機構が昨年4月より設置され、その下に知的財産本部、環境防災研究センター、ヒューマンストレス研究センターの3部門が配置されています。さらに、高度情報化基盤センターがあります。それらにより、学内及び企業間の研究成果を産学連携のもとに育成、実用化するための共同研究の場が整いました。その結果として、平成18年度の経済産業省による産学連携の大学順位は、全国7位と評価されました。

このエンジニアリングフェスティバルは、主にソシオテクノサイエンス研究部の持つシーズを広く公開し、地域社会における科学技術の振興の一助となることを目的としております。今年は「医工連携」を主テーマとし、中心になる見所を設定しております。これを機会に地域の技術者・学校の先生方に研究部の研究を知っていただき、地域社会と工学部が連携し、より一層工学分野が発展することを望んでいます。

研究部ではこのほかに、主に小・中学生向けの「科学体験フェスティバル」、高校生向けの「工学体験大学講座」を開催しております。このエンジニアリングフェスティバルは今年で6年目になります。多くの企業の研究者・技術者の方、高校などの理科の先生方、学生諸君が参加し、活発に本学の教員・技術職員・院生と議論されることを希望しています。

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部長
徳島大学大学院先端技術科学教育部長
徳島大学工学部長

矢野 米雄